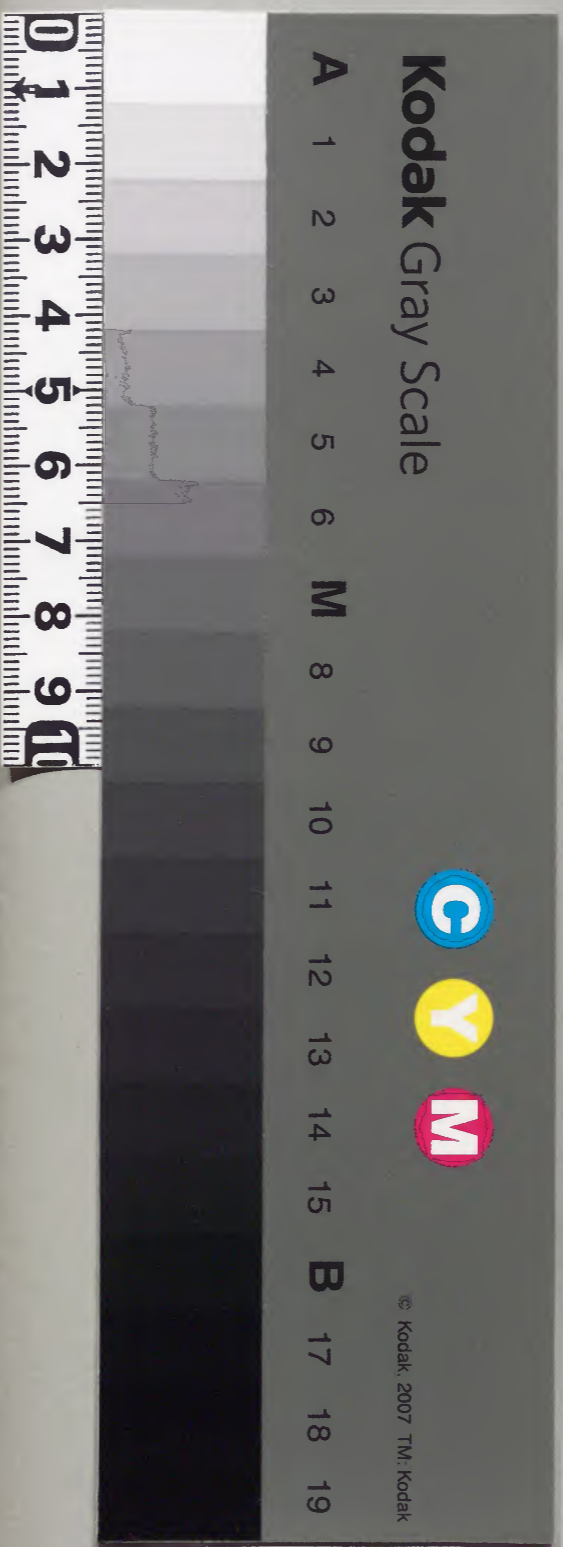


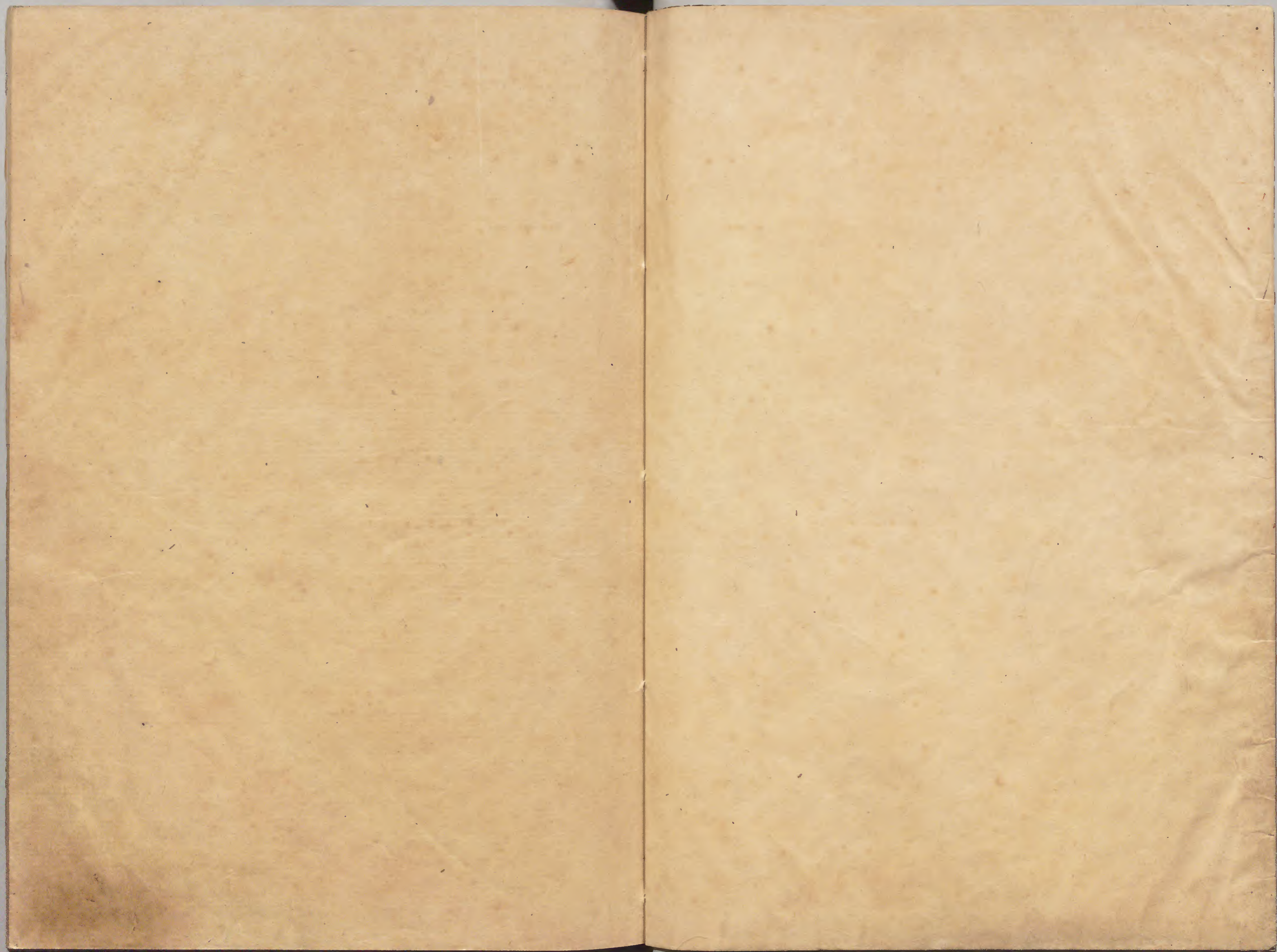
寛永諸家譜

清和源氏丁九冊之内  
頼光流

31

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 ( 31 )
函號	特 76 1





平忌  
能勢  
清水  
福嶋  
落合

寛永諸家系圖傳

清和源氏 丁八

頼光流

平忌

めハ瀧抗後  
平忌

淺草文庫

● 頼光

梶津守 正四位下

法守府將軍

母ハ近江守源俊女

頼國 よりた

頼政守 さねまさりき

右馬控頭 みぎうまのりごんのま

從四位下 よりのゐりかげ

頼資 よりすけ

左衛門尉 さゑもんゑい

從五位下 よりのごゐりかげ

下野守 しもつけのりき

源次郎 げんじらう

資時 すけとき

源大史 げんだいし

左衛門尉 さゑもんゑい

生國掾及海抗 なまくにのりごらふみかた

資家 すけいけ

源次郎 げんじらう

左衛門尉 さゑもんゑい

生國同前 なまくにのりごらふみかた

資家 すけいけ

源三郎 げんざらう

生國同前 なまくにのりごらふみかた

資村むね

孫二郎まご

生國同前なまくに

資威むね

源次郎げんじ

右馬頭みぎうま

生國同前

資継むね

源三郎

生國同前

資負むね

次郎左衛門尉

生國同前

資種むね

三郎左衛門尉

生國同前

資勝むね

三郎

左兵衛

生國同前

資政すけまさ

太郎

左兵衛

生國なまくに日ひ前まへ

資元すけもと

左兵衛

生國なまくに日ひ前まへ

資高すけたか

源五郎

對馬守

生國なまくに日ひ前まへ

資光すけみつ

源大吏

生國なまくに日ひ前まへ

河内國かゐのくに平ひら忌よみののつつりり任にんとと是これよりより初はつめめく  
平ひら忌よみのの称なづ号ごうともともららゆ

資房すけふら

左兵衛

生國なまくに日ひ前まへ

資一すけいち

左太郎

生國なまくに同前どうぜん

資好すけよし

又太郎

左兵衛

生國なまくに同前どうぜん

資正すけただ

左兵衛尉

生國なまくに同前どうぜん

資重すけしげ

源太郎

左兵衛

對馬つしま守もり

生國なまくに同前どうぜん

重頼しげたか

初はつハ資すけ頼たか

左兵衛

生國なまくに同前どうぜん

海うみ杭かた七しち村むら上のうへ領りやう知ち

頼俊たかゆき

對馬守 居住日前

溝杭七村と願ど二十六家より栲列海

杭の郷ともわく徳國より海よりわ

りよきく後より筑前中納言秀秋より

属と

頼勝

藤花 石見守 生國栲列 海杭

父頼俊と同一く祐玉より流浪して

後より秀秋より後より秀秋恩顧とくか

くばけとよき海杭とわく平忌

と称と

東照大権現秀秋とまじりつとむとび

くまの時秀秋乃使よりてまじく

大権現より福

とる長又年石田三成孫及の時大坂より

り使と頼勝よりてまじりつとむとび

勝が子と人質とて大坂の城へ川



もはるるのうらやまき 龍勝がむ  
とめと大坂よりとくふ

同年九月 関が原合戦の時 秀秋三歳と  
幼となりて 英濃國松尾の城よりたて

こころを是よりとす 龍勝秀秋よりあり  
ていそくはるむと江戸よりつりて

大権現より属しつるべしと 秀秋別  
これとゆるすゆへ 龍勝が家臣 赤木清  
と 赤木清と 江戸よりつりて

て 秀秋

大権現よりとるごみとくつるべきに  
とけり時より

大権現感し 大おひくく 龍勝が秀秋と  
いきしるころなりと 赤木清と 江戸  
より帰り来りしと 秀秋をい  
り 龍勝よりとけり

同年九月

大権現諸軍と率しつる 龍勝よりとけり

向の時此役と損勝し下りて居て  
いよくすまや大入質とてはか  
ばなんぢがんごうとまきしく候たまふ  
なごこれ勝も才資重と人質とて  
しつゝまひる

大権現こまきと感どたまひて資重と  
園が原よりしつゝ来たまふ

大権現八音野が原より此陣とめし秀秋  
八園が原の菊の丸山より陣とる候

敵兵大谷刑部少輔丸山の麓に陣と  
りり付り秀秋が先づけ戦勝し騎兵  
と率し

大権現の沖陣よりむつんとすはま  
て大谷氏が陣よりむつりて合戦と  
しげ敵兵殺多しとらと候なり大  
谷が軍をぶらり刑部少輔もぶらり  
く終り自殺と

大権現勝利とぬたまひをいりかゝ



同十年伏見よおわ〜

大権現とね〜〜〜まつり濃別〜〜

石の悪地と弥領と

同十二年二月廿四日卒と 四十八歳

心月宗安と号と

資重

お羽守

重勝

牛右衛門

石見守

三歳少〜〜父重勝〜〜

大権現の鈞命〜〜家督成は〜

家紋 九曜





頼成

日記 生國同前

高坂彈正の妹をめせり

信玄勝頼より後又悦溪常規より

道成

忍右衛門 生國同前

〜〜〜めハ勝頼より〜〜

良知

東照大権現甲列由入國の時や書れてつゝ

〜〜〜川系 桂嶽宗壽と号す

帯刀 生國同前 勝頼より

大権現甲列由入國の時や書れて

〜〜〜〜〜 陽岳玄表

〜〜〜

和由わゆ

次郎右衛門 生國日記

母ハ小幡惣七郎 盛直もりなおむすめ

台徳院殿

將軍家一ノ流ニシテマシケル

良時りょうとき

勘三郎 生國日記

將軍家一ノ流ニシテマシケル

善征ぜんせい

勘系 生國日記

將軍家一ノ流ニシテマシケル

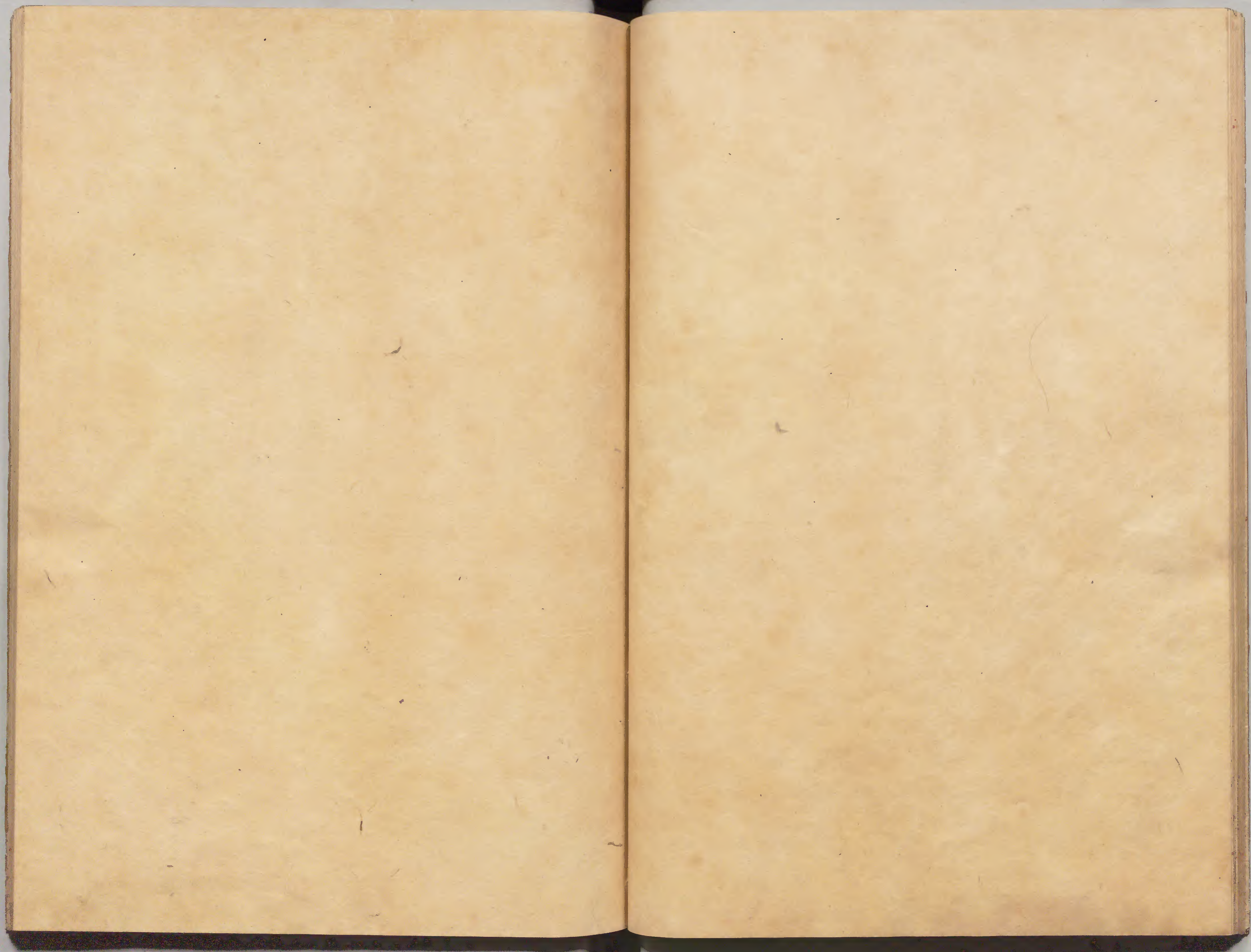
千道ちみち

忌右衛門 生國日記

台徳院殿の釣合つりあひトシテマシケル







能勢のせ

● 頼勝より

十郎

生國なうくに 接列つぎ

多田たの 満仲まんちゆう 十世じゅうせい の孫まご 能勢のせ 太郎たろう 判官はんぐわん

頼仲よりちゆう の後のち 胤ひろ なり 累代かさね 接列つぎ 能勢のせ

郡ぐん と 領りやう と このゆへに 能勢のせ と 呼よぶ

称なづ 号なづ こと

頼明

周懐与 生國日新  
八十回案よく死す

頼幸

左近 生國日新  
四十二歳よく死す

頼次

播磨守 淡土位下 生國日新  
長久二年園原水陣のとき

東照大権現より起る

同十九年の冬大坂水陣の時約余より  
より天満口よりむらじ仕高と構ふ  
元和元年大坂再戦のとき、命を  
よりより播磨多田庄よりゆき一撥

とたゞく

寛永三年江戸小おわく死す六十  
又栄

頼重

次右衛門

大権現小治り

享和長十又年

名徳院殿と好

同十九年大坂水陣

元和元年大坂再戦の時頼次と同く

多田庄よりゆき軍事とほこめり

正仗養堂なる

寛永九年より

將軍家よりつとくま

頼宗

新十郎

頼栄

寛永十年 泚書院 出書と信と心

月十一年 中奥小入と信と心と

月十三年 又泚書院 出書と信と心

助十郎

寛永十七年 七月廿二日

將軍 弘と信と心と

月十九年 六月廿九日 泚書院 出書と信と心

頼隆

小十郎

寛文長九年

大権現と祿と信と心と

月十九年 元和元年 大坂と陣と信と心と

とおか

大権現の供と信と心と 蕨と信と心と 江戸

おりし



名徳院殿とありしつゝまじり

同九年

將軍家より送りしつゝまじり

幕紋まゐりもん獅子牡丹ししよまゐりもん

室町公方家より桐紋きりのもんとたゞりしを

よりこのころ衣服の紋いふだのもんとてあらは

を代しろしろより矢筈やはずとて相紋あいのもんより





のら浪人定なり京都に任じ  
寛永五年病死し 法名日喜

頼安

四郎右衛門 生國日記

佐野主馬の属 — 勘定の役とす

元和九年

名徳院殿とあり

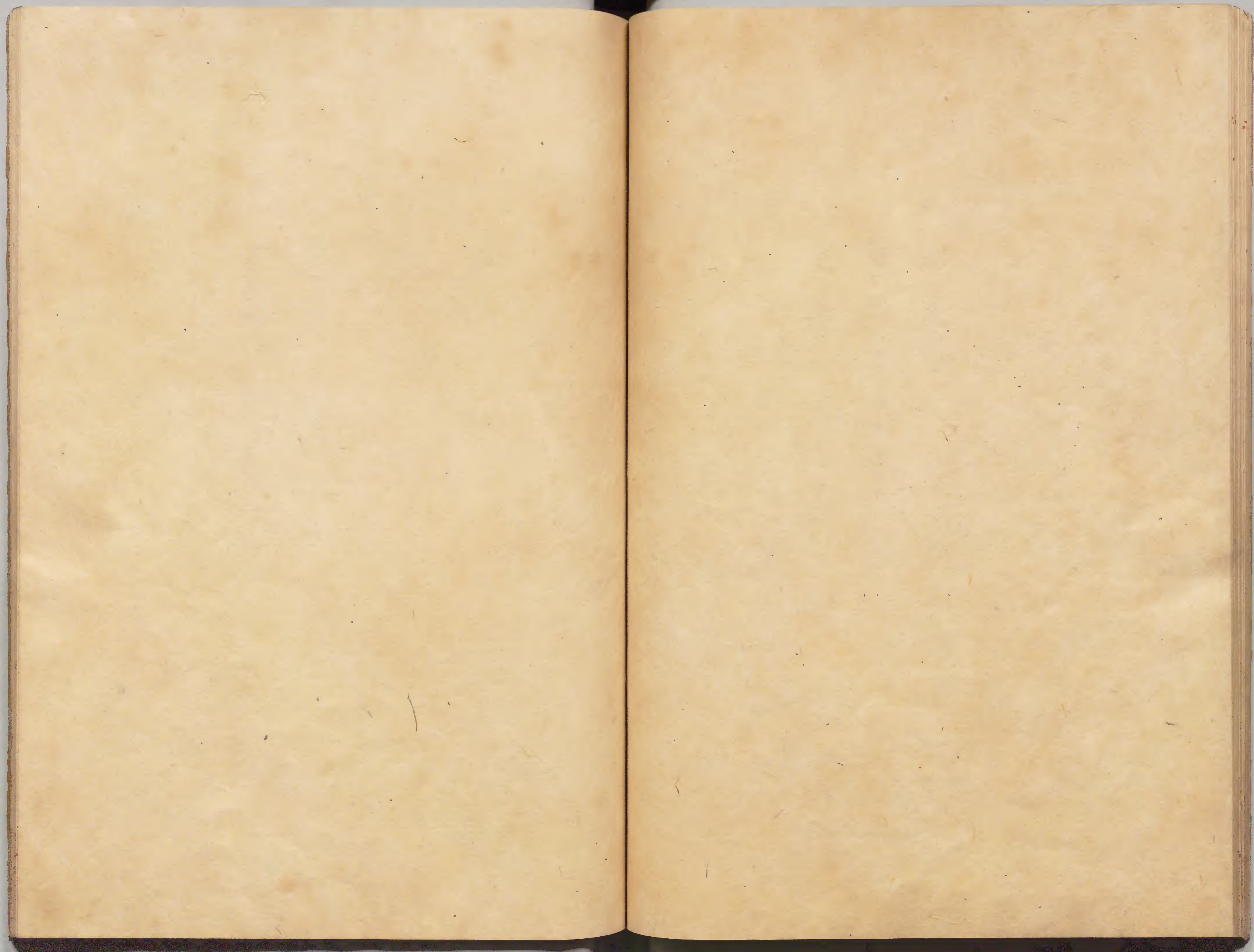
久頼

庄三郎 生国日記

寛永六年

將軍家とあり

家紋 龜甲



清水しみず

某なにか

庄しやう大史だいし 生なま國くに但馬たんま

山名やまな右みぎ清門しみん督とく家け人にんなり

正親ただちか

平ひら右みぎ清門しみん

天正十八年小田原陣以前より  
大指現へ迄之の事

元和二年十月六日六十歳にて死す

熙政 ひろまさ

平左衛門 生國 横津國

実八山名と云郎 寛政の長男なり後より

正親の事なりと云る

元和三年

台徳院殿を築いたる事

同八年より大御方をあつとむ

同九年より

將軍家へしつとむ

熙豊 ひろゆき

正安

家紋九門二列

祐豊 すけとよ

山名右衛門督 但馬守護よりお石城居と  
天正八年五月廿一日七十歳よして死と法名  
宗詮 そうせん

寛熙 たっひろ

同慶又二郎 生國但列お石の城み信と  
秀吉の代よりいりて但馬と去て浪人なる

寛永四年七月四日六十九歳にて死す法名  
韶仙せうせん

竟政まさひ

同と又郎 生國つのくに橋津國

大権現おほみかへ山名せん禪高ぜんこうト上かみハ今いま存ぞん大坂おさかト云い

在山名やまな一家いけ竟政まさひト所家しよけへ引ひ引ひト考かうト云い

言上いんじやうト云いト時鈞命きんめいみいいトト重かさねト作あそ付せト云い

ト云いトののト百ひゃく先せんト大坂おさかト云いトトト云いト此こゝト上かみト云い

ト云いトて大坂おさかトトト云いト

元和元年五月七日大坂の株かぶみかたの年とし

廿七歳にじゅうしちさいトトト云いト

家紋いへのもん相あひ

派紋はゑもん七葉しちのゑ根ね藤とう







浩室より後と

大権現より御馬と小條陸奥より

すまみ時為基使とて可いふる

之法園東の通路自由なる所遠列

懸塚より渡海し御馬より

て款とけとて陸奥守書と為基

三つ今小こせと亦物と

遠列高天神石陣の時忌部右郎左衛門

なるひり力掃部城中よたてり

とくに討死せんとき

大権現大建治より

そり事とめとて

死をまぬりしむと進るをう一族

火なり家入を長矢文と城中へ村入

いへく落城の時とよと我小旗

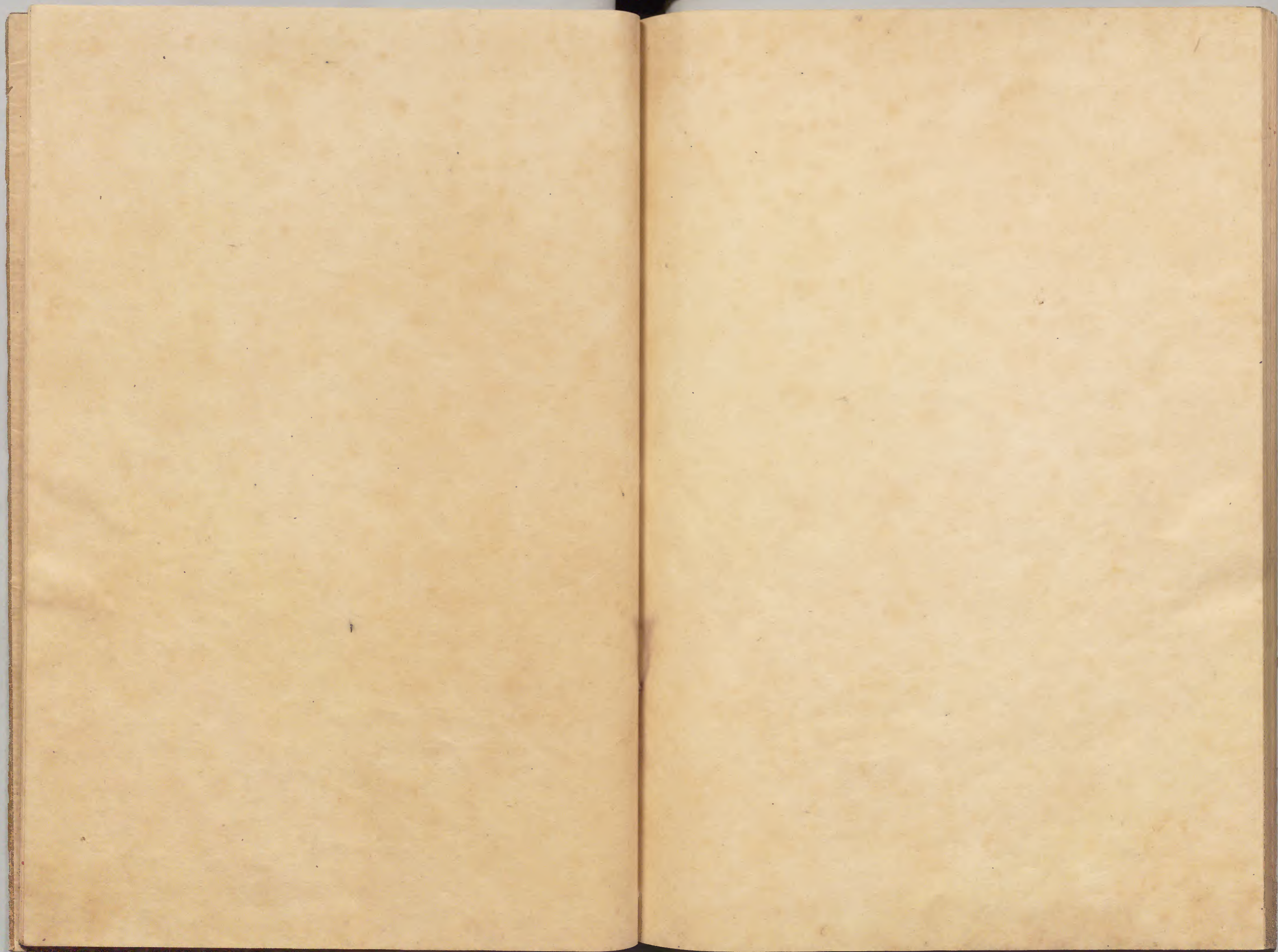
とんくこれりてとて逃去令とて

こせりしより忌部兄弟死とすぬり

後やおされて知りしむりる子







福く鳩う

某たれ

右みぎ邊へ

別わか發は

道みち水みづ

と

号ごうと

生なま國くに相あ列り

小こ條じょう家け代だいと

正ただ定ちやう

三さん郎らう系けい系けい尉ゑい

生なま國くに同どう前ぜん

小條氏出代こじょうししゅつだい なまこ

膳重ぜんじゆう

八左衛門尉はさゑもんゑい

生國門前なまくにんまへ

名徳院殿なとくゐん

將軍家へ送つてまはる

家紋いへのもん 花梅ななめ 遠ちひ

落合 おちあひ

● 正宅 まさたく

将監 しやうげん 生國尾列 なまくにしり  
信長 のぶなが 一属 いちぶ 病死 やまいち 法名 ほふな 一属 いちぶ

正安 まさやす

五右衛門尉 ごえもんゑい 生國月前 なまくにつきさき



大権現へお詣り

享和十二年 病死 法名清女

安者

久太郎

生國 殊列 伏見

大権現

名徳院殿へお詣り

家紋 丸内三柏

